

2024年度 大阪府訪問看護実践研修事業 教育ステーション事業

訪問看護ステーション彩
駒野 倫久

目標

- ・多職種向けACP研修を成功させ、地域での定着を促進する。
- ・訪問看護師による特定行為の認知度向上を図り、地域での活動を促進する。
- ・人材の定着・育成体制を構築し、ステーション運営の安定化を促進する。

計画

- (1) 研修事業・・・・・・・・・・集合研修2回、オンライン研修1回開催
- (2) 府民への相談支援事業・・・・集合研修1回開催
- (3) 訪問看護体験研修事業・・・・3回（3名）
- (4) 電話FAX相談Q&A事業・・・・・・・・・・5件

実践内容

(1) 研修事業・・・・・・・・・・集合研修2回、オンライン研修2回開催

(2) 府民への相談支援事業・・・・・・・・集合研修1回開催

(3) 訪問看護体験研修事業・・・・・・・・5回(2名)

(4) 電話相談事業・・・・・・・・・・5件

(5) コンサルテーション事業(計画なし・実践なし)

(6) その他【(1)～(5)事業以外で教育ステーションとして実践したもの】

- ・googleformsの使い方をPDFで配付

- ・八尾市における運営指導の詳細を資料にまとめて共有

地域における協力体制・・・・・・・・協力ST：8ST 協力NS：2名

(1) 研修事業

① 2024. 5. 20 集合研修

テーマ：『管理者連携ミーティング
ー運営上の困りごとと解決プロジェクトー』

講師：訪問看護ステーションあんず
岩井 兵太 氏

参加者：12名（目標10-30名）

管理者同士で相談し合える場

管理者連携ミーティング

ー運営上の困りごとと解決プロジェクトー

日時 5/20 月 19:00-20:30
(18:30～受付開始)

場所 八尾市光南町1-3-26
訪問看護ステーション彩 2F研修室

講師 岩井 兵太 氏
訪問看護ステーションあんず管理者
訪問看護ST協会中河内ブロック長

採用や教育、サービス提供体制に関する
悩みなど、運営上の様々な困りごとに対
して知恵を出し合い解決しませんか？
事前アンケートの内容に応じた研修、
グループでの情報共有を行います。

お申込はこちら▶▶▶



お問い合わせ



irodori.kyoiku@gmail.com

訪問看護ステーション彩（岩井）

(1) 研修事業

① 2024. 5. 20 集合研修

管理者を対象に、各テーマに対する
グループディスカッションを実施。

【主なテーマ】

- ・ 労務管理（労働条件や残業等について）
- ・ 教育体制・キャリアアップ
- ・ サービス提供体制管理
- ・ 採用強化・離職防止
- ・ 安全管理（交通事故、医療事故等について）
- ・ 業務効率・ICT導入
- ・ 利用者確保、収益管理



(1) 研修事業

② 2024.7.16 オンライン研修

テーマ：『離職防止に向けた取り組み

ー健康経営の実践ー』

講師：株式会社バックテック 山本純志郎 氏

参加者：14名（目標30-50名）

2024年度大阪府訪問看護実践研修事業 教育ステーション事業

一般社団法人大阪府訪問看護ステーション協会

中河内ブロック教育ステーション 訪問看護ステーション彩

Web
研修

安定運営・規模拡大に向けて

離職防止に向けた取り組み

ー健康経営の実践ー

日時 7/16 火 18:30-20:00

講師 山本 純志郎 氏
株式会社バックテック CS責任者

対象 訪問看護職員、診療所医師、病院MSW、
ケアマネジャー等の福祉職

お申込はこちら

働き手不足が加速する社会情勢において、採用強化だけでなく離職防止が重要視されています。今回は健康経営SaaS企業から講師をお招きし、そのノウハウだけでなく『明日からできる具体的な取り組み』についてもご教授いただきます。



お問い合わせ



irodori.kyoiku@gmail.com

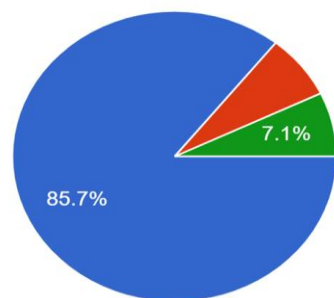
訪問看護ステーション彩（岩井）

(1) 研修事業

① 2024. 7. 16 オンライン研修 アンケート結果

ご所属を以下から選択してください。

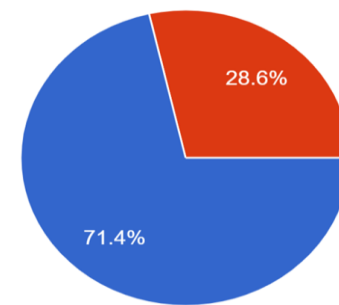
14 件の回答



● 訪問看護ステーション
● 病院
● 診療所
● ケアプランセンター
● 訪問介護ステーション

今回の研修の理解度を教えてください。

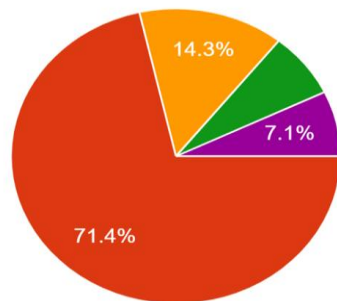
14 件の回答



● 理解できた
● やや理解できた
● 普通
● あまり理解できなかった
● 理解できなかった

職種を以下から選択してください。

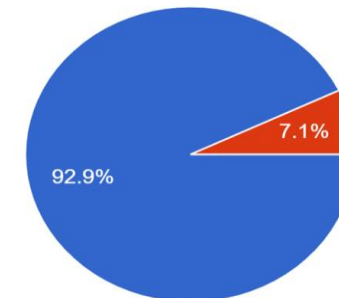
14 件の回答



● 医師
● 看護師
● リハビリテーション職
● MSW
● ケアマネジャー
● 介護福祉士

今回の研修を受けて、健康経営や離職防止に向けた取り組みの必要性を感じましたか。

14 件の回答



● 強く感じた
● 少し感じた
● あまり感じなかった
● ほぼ感じなかった

(1) 研修事業

③ 2024. 9. 11 オンライン研修

テーマ：『訪問看護における特定行為

－事例を通じて－』

講師：宮前医院 宮前 了輔 氏

地域ケアステーション八千代・訪問看護ST

西尾 まり子 氏

参加者：18名（目標30-50名）

2024年度大阪府訪問看護実践研修事業

一般社団法人大阪府訪問看護ステーション協会
中河内ブロック教育ステーション 訪問看護ステーション彩

Web
研修

訪問看護における特定行為
－事例を通じて－

9月11日（水）19：00 - 20：30

講師

宮前 了輔 氏（宮前医院 医師）

西尾 まり子 氏

（地域ケアステーション八千代・訪問看護ステーション管理者）

対象

訪問看護職員、診療所職員、MSW

特定行為に対する認知度不足もあり、訪問看護においてはまだまだ実践例が少ない状況です。今回は講師に診療所医師と特定行為を実践されている訪問看護師をお招きし、特定行為に関して感じているところや実践例についてお話しいただきます。

お問い合わせ



irodori.kyoiku@gmail.com
訪問看護ステーション彩（駒野）

お申込はこちら

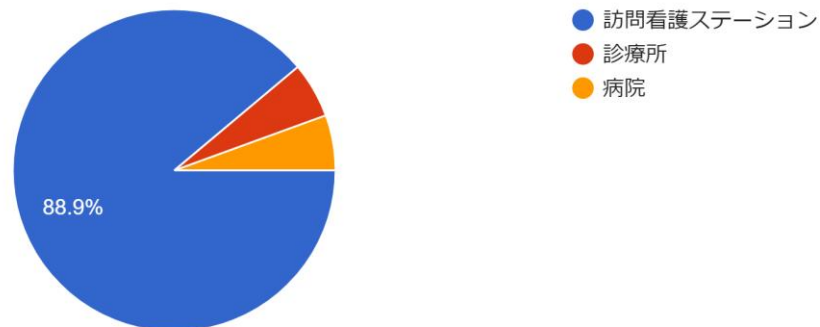


(1) 研修事業

③2024. 9. 11 オンライン研修会 アンケート結果

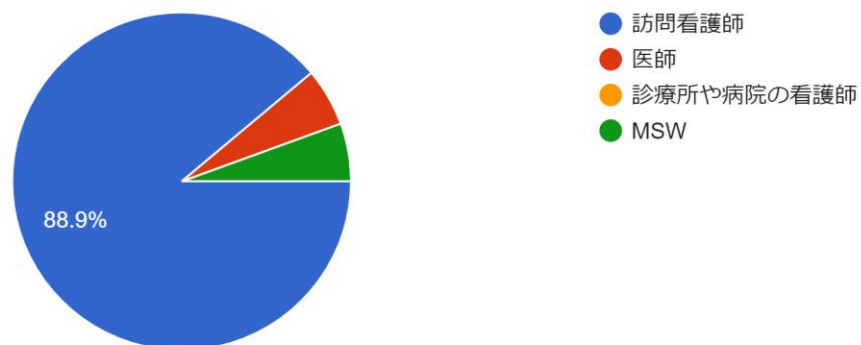
ご所属を以下から選択してください。

18 件の回答



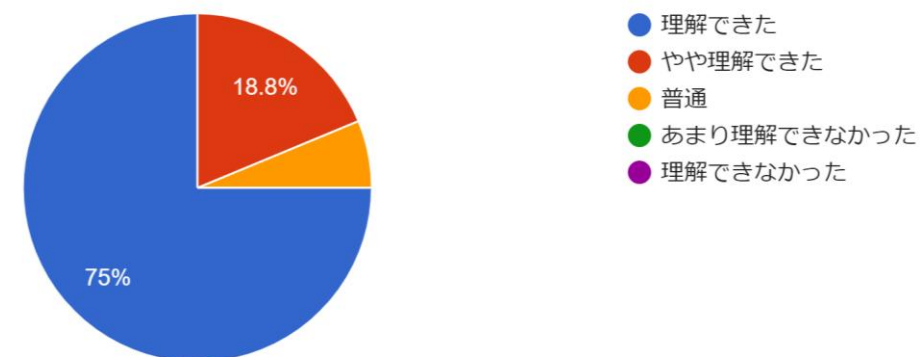
職種を以下から選択してください。

18 件の回答



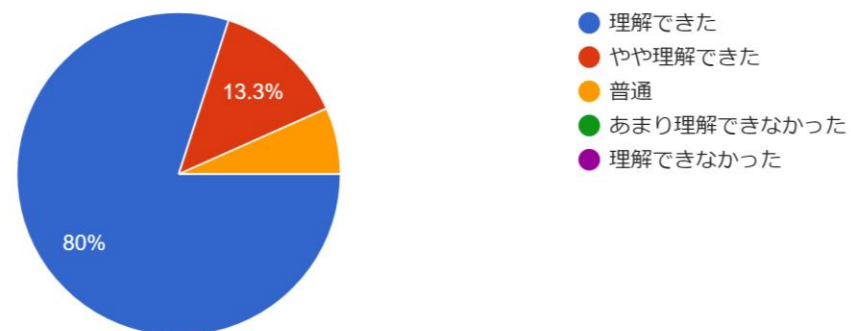
今回の研修の理解度を教えてください。

16 件の回答



今回の研修の理解度を教えてください。

15 件の回答

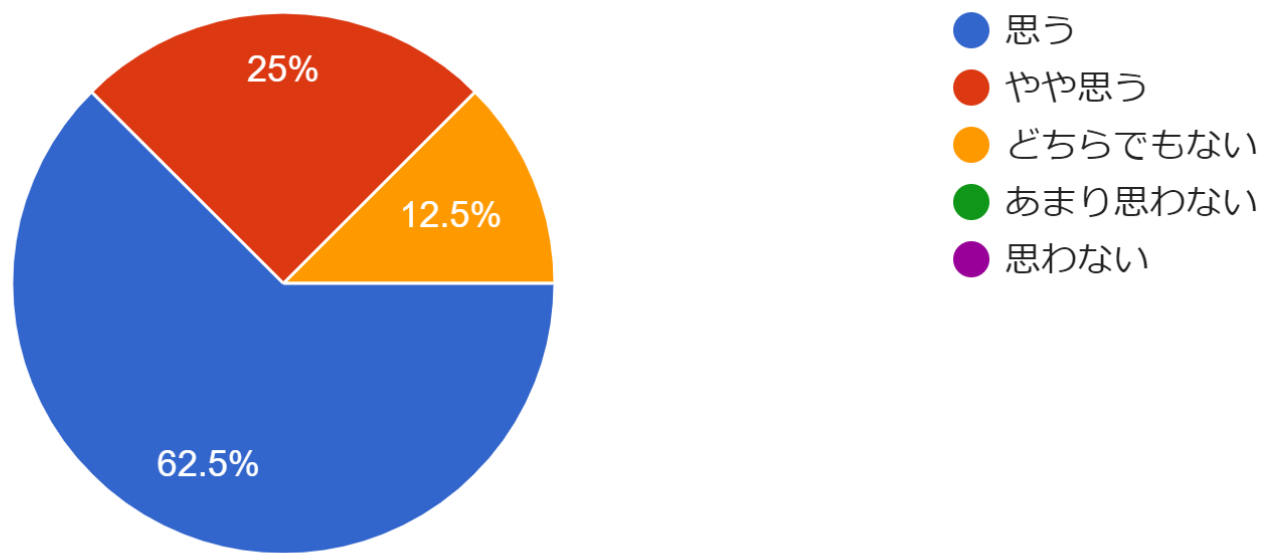


(1) 研修事業

③2024. 9. 11 オンライン研修会 アンケート結果

自ステーションで特定行為の活動を強化したいと思いましたか。

16 件の回答



(1) 研修事業

④ 2024. 11. 30 集合研修

テーマ：『人生会議（ACP）支援実践人材育成研修』

場 所：八尾市文化会館プリズムホール 4 階研修室

参加者：46名（目標50名）

医師、看護師（訪問看護、看多機、病院、地域包括、診療所）

保健師、ケアマネジャー（ケアプランセンター、グループホーム、

地域包括）、セラピスト（訪問看護）、介護士・介護福祉士、

MSW（病院）、救急救命士（消防局）、事務職（訪問看護）

2024年度 大阪府訪問看護実践研修事業 教育ステーション事業

一般社団法人大阪府訪問看護ステーション協会

中河内ブロック教育ステーション 訪問看護ステーション彩

令和6年度大阪府人生会議相談対応支援事業



「人生会議(ACP)」の実践に必要な基本的概念や知識・方法がわかる

「人生会議(ACP)」支援実践人材育成研修

【日 時】 2024年11月30日（土） 13時～16時

【場 所】 八尾市文化会館 プリズムホール 4階 研修室

【定 員】 50名（定員超過の場合、受講者の調整をさせていただきます）

【対 象 者】 地域包括ケアシステムに関わる医療・介護・福祉専門職

（看護師、セラピスト、MSW、ケアマネジャー、医師、看護学生等）

【プログラム】

・講義

講師：濱吉 美穂氏（動画）

（佛教大学保健医療技術学部 看護学科 老年看護学領域）

・グループワーク（ロールプレイ）

お申込みはこちら

【申込方法】

右のQRコードからお申し込みください。



お問い合わせ



irodori.kyoiku@gmail.com

訪問看護ステーション彩 （担当：駒野）

(1) 研修事業全体を通しての気づき

「管理者連携ミーティング」では、業務効率や労務管理など共通する悩みが多く、共感できて安心した・他社の取り組み等を知れて明日からすべきことが明確になったという声が多かった。

「離職防止に向けた取り組み」では管理者が多く参加されており、職員への感謝や気遣いが『伝わる重要性』についてエビデンスを知れたことは非常にありがたかったとの声が多く、アンケートからも非常に満足度の高い研修であった。

「訪問看護における特定行為」では、医師が特定行為に求めるものはタスクシフトだけではなく、議論できる知識を有した看護師であるという点が示された。また、実践事例につなげるためには認知度向上を待つよりも、特定行為修了者側から医師に対して積極的に介入の必要性を伝えていくことが重要であるとの意見が多かった。研修後、受講者数名で情報交換等をしていくLINEグループが発足した。

「多職種向けACP研修」では、医師も含め、多くの参加者から有意義な内容であったとの声をいただいた。薬剤師、栄養士、福祉用具専門相談員への広報に課題を感じた。

(2) 府民への相談支援事業

2024. 7. 16 集合研修

テーマ：認知症高齢者における人生会議の始めかた 参加者：地域住民8名

場 所：訪問看護ステーション彩2階（おれんじ教室の場で開催）

- ・ディスカッション中は常に参加者が中心になり、終始多くの意見がでていた。

「CMで見ただけで考えたことが無かった」「家族とも話してみたいと思った」との声が多く、時々このような場を設けてほしいとの要望もあった。

- ・人生会議に触れる機会の少なさが課題でもあり、おれんじ教室や一般市民の集まる場に積極的に関与していくことが重要であると感じた。

（３）訪問看護体験研修事業

実績：５回（５名）

- ① 看護業務：３名（施設看護師・病棟看護師・訪問看護師 各１名）
- ② 管理業務：２名（ST開設初期の管理者・小児特化の訪問看護ST管理者 各１名）

看護業務に関しては、【現場体験を軸に、訪問看護の実務について理解を深め、心理的安全性を担保する】ことを目的に対応した。体験研修の感想として、『ホームページや知人からの情報では拾いきれない生の情報に触れられるので有難い』との声が多かった。特に同行訪問をすることで訪問看護ステーションで働くイメージが確立できたと好評であった。

管理業務に関しては、【課題解決を軸に、訪問看護の運営、労務管理、業務効率化等について理解を深め、自ステーションにおける運営の安定性向上を図る】ことを目的に対応した。体験研修の感想として、『中々相談できる場所がないので有難い』『特に労務管理などは本を読むだけで中々実践方法がわからないため、取り組むきっかけと方法をいただけて有難い・継続的に相談したい』との声があった。

（４）電話FAX相談Q&A事業

〈 窓口時間 〉 平日 10：00 ～ 16：00

〈相談担当者〉 にじりハ訪問看護ステーション 木村茜

訪問看護ステーションリール 北村愛美（精神訪問看護担当）

〈 相談方法 〉 相談用紙に記載し当ステーションへFAXまたは相談内容をメールで送る。

後日 1～3日で当ステーションから返答

相談件数：5件（指示書関連2件、制度改定（リハ減算・届け出）2件、医療訪問回数1件）

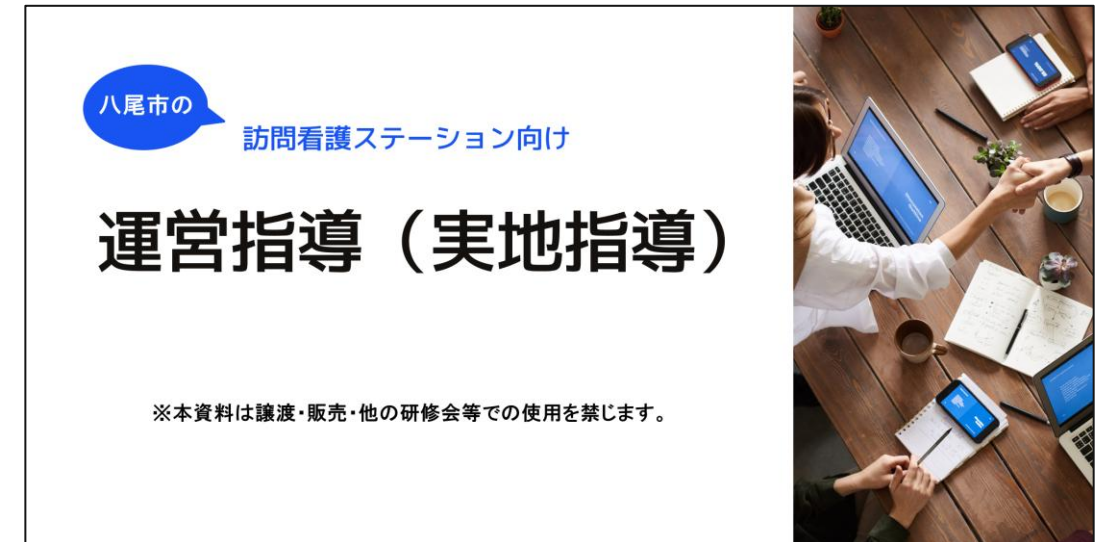
気づき：

電話による相談では対応者とのタイミングが合わないことが多く、FAXによる相談では相談者側の手間が大きくなるように感じた。今年度はメールでの相談が可能としたが、メールの方が相談しやすいとの声も多かった。また、メールであれば協力ステーションに転送しやすく、対応を任せるという点でもメールが望ましいように思う。

(6) その他

- ・ googleformsの使い方をPDFで配付

- ・ 八尾市における運営指導の詳細を資料にまとめて共有



地域における協力体制についての気づき

協会活動に関わる裾野を広げる施策として、協ラストーションのようなサブとして関われるポストを増やすこと・それらに関わるメリットを提示することが重要と感じた。

今年度は協ラストーションに対して各役割に応じた報酬の設定と業務内容の詳細な引継ぎを行い、最低限の収益と業務範囲の拡大といった点で、協会活動に関わるメリットを提供できたものとする。

《主な協力費》

協力ST会議参加：1,000円／回（年3回開催） 研修会運営補助：2,300円／時間／人

研修会チラシ作成・アンケート：10,000円／回

研修会FAX案内：2,000円／回 研修会案内郵送：実費負担全額

電話FAX相談Q&A：1,500円／回 体験研修：看護業務12,000円／回、管理業務30,000円／回

合計109,285円の協力費となった。

設定した目標の評価

1. 多職種向けACP研修を成功させ、地域での定着を促進する。

研修会の参加者自体は目標未達となったが、医師をはじめ多くの職種に参加いただけたので平時の連携に活きるものとする。地域での定着のためには小規模・頻回な話し合いの場が必要であり、参加者のグループに研修会後の定期的な集まりなどを促進することも有用に思う。

2. 訪問看護師による特定行為の認知度向上を図り、地域での活動を促進する。

研修会の参加者自体は未達であったが、研修会後にLINEグループによる情報共有が図られるなど、効果的な場になったと考える。特定行為の認知度向上と実践が並行して進められるよう、対象看護師から医師への積極的な広報を後押ししていく必要があると考える。

3. 人材の定着・育成体制を構築し、ステーション運営の安定化を促進する。

管理者同士が対面で、グループで課題を相談し、対策を考える機会是非常に有意義であったと考える。小規模な集まりを継続的に行えるような仕組みが必要であり、教育ステーションによる研修会がそのきっかけとして定着すればステーション運営の安定化に寄与できるものとする。

教育ステーション事業全体の効果と次年度の課題

- ・ブロック内での連携や協力体制は比較的整備されているものと感じており、訪問看護師の確保、育成、定着、サービスの質向上という点ではブロック全体で地域のステーションに一定の満足度は提供できていると感じる。
- ・一方で、参加者数により予算が執行される研修システムについては再考の余地があると考える。補助金との兼ね合いで致し方ない部分もあることは思うが、『研修会の目的を十分に練った上で、必要な研修を行うこと』に第一義を置いた研修会企画・検討が必要と考える。無料のオンラインセミナー等も増えている中で、『訪問看護ステーション協会がすべき研修』について、十分に検討しうる時間の確保と方向性の提示が課題だと感じる。